

のせの教育の魅力を伝えていきます

教育長だより Vol.3

6

2025
June

第3回目の教育長だよりは「能勢の浄瑠璃」についてお知らせします。

浄瑠璃に関心のある方も、あまり興味がない方も、能勢の人々がこれまで長い歴史の中で受け継ぎ、時代とともに育み、現代に合わせてアップデートしてきた大切な大切な「能勢の浄瑠璃」についてお伝えします。最後までお読みいただけたら幸いです。

文責 辻 新造



#01 みなさん、浄瑠璃をご覧になられたことはありますか？

私は能勢生まれの能勢育ちですが、幼少期から大人になるまでは浄瑠璃に触れることが一切ありませんでした。家族の中に浄瑠璃を嗜む人がいなかったからです。でも今は浄るりシアターができ、6月の浄るり月間、神社公演、20歳のつどい、児童生徒対象の芸術鑑賞会としての学校貸切公演など、子どもから大人まで浄瑠璃にふれる機会が多くなりました。



#02 素浄瑠璃に人形・囃子を加え、ビジュアル化して27年

1998（平成10）年 永く伝えられた「能勢の浄瑠璃」を地域の財産として守り育てていくとともに、次の世代にむけての提案と発展のため、語りと三味線だけの浄瑠璃（素浄瑠璃）に「人形」と「囃子」を加えた《ザ・能勢人形浄瑠璃》がデビューしました。



能勢町教育委員会

#03 人間国宝の桐竹勘十郎さんより直接指導を受けました

私自身、教員になって数年経った頃に教員仲間と一緒に「人形遣い」部門のオーディションを受けて合格し、人形の稽古に励んだ時がありました。今は続けられていませんが、十数年、人間国宝の桐竹勘十郎さん、吉田簀二郎さん、吉田簀一郎さんから指導を受け、人形遣いを経験し、多くのことを学びました。

1998年から27年間、今もずっと、文楽座の芸芸員の方、そしてお囃子には望月太明蔵社中から鹿角座の指導を続けていただいています。



人形の首（かしら）、人形衣裳、舞台衣装、舞台美術、演目（「能勢三番叟」（のせさんばそう）「名月乗桂木」（めいげつにのせてかつらぎ））はすべて能勢オリジナルということで、全国からも注目されました。太夫・三味線・人形遣い・囃子・こども浄瑠璃（語り・三味線・人形・囃子）があり、年間を通して行われるワークショップを受けながら、自主練習、依頼公演と活動しています。

その後、2006（平成19）年、町制50周年を記念して「ザ・能勢人形浄瑠璃」は「能勢人形浄瑠璃鹿角座（ろっかくざ）」で劇団として旗揚げして、現在につながっています。



#04 今、スマホで「能勢の浄瑠璃」と検索すると・・・

「200年の伝統」、「能勢の文化芸術の拠点・浄るりシアター・のせむすび」、「語り継がれる伝統芸能・浄るりシアター」、「能勢の浄瑠璃の動画」と続々と能勢の浄瑠璃に関する情報がたくさん掲載されています。興味のある方は、是非動画も見てください。能勢町の浄瑠璃の歴史や現在のとりくみがとても分かりやすく紹介されています。



能勢の浄瑠璃

#05 6月1日 工夫を凝らした舞台芸術 素浄瑠璃に感動

今年、もうすでに6月の浄るり月間は始まっています。月初めの6月1日、「能勢の素浄瑠璃」が上演されました。私も500円の当日券（安っ！）を買って素浄瑠璃を観に行きました。

舞台中央に太夫と三味線。その横にはスポットのあたった人形。舞台上部には、浄瑠璃の語りに合わせた字幕スーパーがちょうどいい文字数で観客に知らされます。（映画のテロップのような手法）語る速さとテロップが絶妙にマッチしています。演目の床本も入場時に渡されるので、浄瑠璃を聴きながら、自分でストーリーをいつでも読み返すことができます。

そして、何よりも、浄瑠璃のストーリーに合わせた照明が色鮮やかに表現され、感情の移入された語りのパフォーマンスと背景が相まって、観客の心に訴える演出がとても素晴らしかったです。

町内で見かける身近でよく知っている方々が、浄瑠璃の舞台に立つために稽古を積み重ねて来られての舞台。一門の関係者やご家族の方々が多数お越しになっておられました。観客席からは、威勢のいい声で「よっ！まってきた！日本一！」とても迫力がありました。

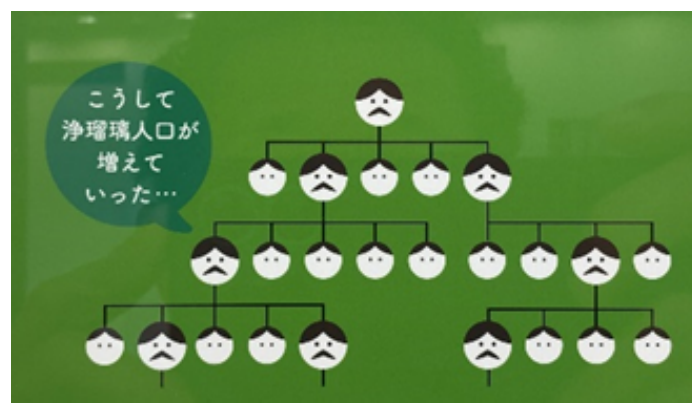
「絵本太功記」「増補朝顔日記」など5演目の披露がありました。三味線のリズムと音程に合わせて感情を込めて声色を変えながらの太夫の語り。人形が登場しない素浄瑠璃ですが、語りと三味線のクオリティの高さを感じ、セリフとストーリーを丸ごと楽しむことができました。



#06 どうして200年間も続き、今も太夫もが200人もいるのか？

古くから能勢には、独自の語り手を育成するシステムがあります。能勢には他に類例をみない“おやじ”と呼ばれる制度にあります。いわゆる家元にあたりますが、違うのは世襲制ではないということです。“おやじ”になる太夫は弟子を5、6人養成し、後継者の育成を行います。新しい“おやじ”が誕生することで、それまで浄瑠璃とは縁のなかったおやじの周りの町民を浄瑠璃の世界へと誘い込む、つまり浄瑠璃人口の拡大につながっています。

こうして現在でも、200名を越える語り手が存在し、町内各地区に太夫襲名の碑など100余基が残されています。ここ能勢町がいかに浄瑠璃になじみ、親しんできた土地であつたかを物語っています。農業のかたわら土地固有の芸事として、農閑期に師匠からマンツーマンで稽古を受け、身につけていったものであること。つまり、庶民によって創られ、伝え続けてきた文化だということです。



#07 四つの派 と 太夫の住む自治区 の関係について

みなさんのお住まいになられている地域（自治区）と太夫名について触れておきます。

竹本文太夫派……神山、長谷、垂水、稲地、平野、上杉、今西、森上、栗栖

竹本井筒太夫派…上山辺、東山辺、山田、森上、栗栖、片山、下田、平通、柏原、大里、宿野

竹本中美太夫派…山田、天王、猪名川町全域、

竹本東寿太夫派…歌垣、東郷、田尻の東地区。

(引用：「能勢の浄瑠璃史」(能勢町教育委員会 平成8年発行)

竹本文太夫派・竹本井筒太夫派・竹本中美太夫派があり、互いに励まし競いあってその伝統を継承してきましたが、2001（平成13）年に新しく竹本東寿太夫派が誕生し、四派となりました。

語り手 200 名を数える。 四派の紹介

竹本 文太夫派 (たけもと ふんだゆうは)

竹本 井筒太夫派 (たけもと いづつだゆうは)

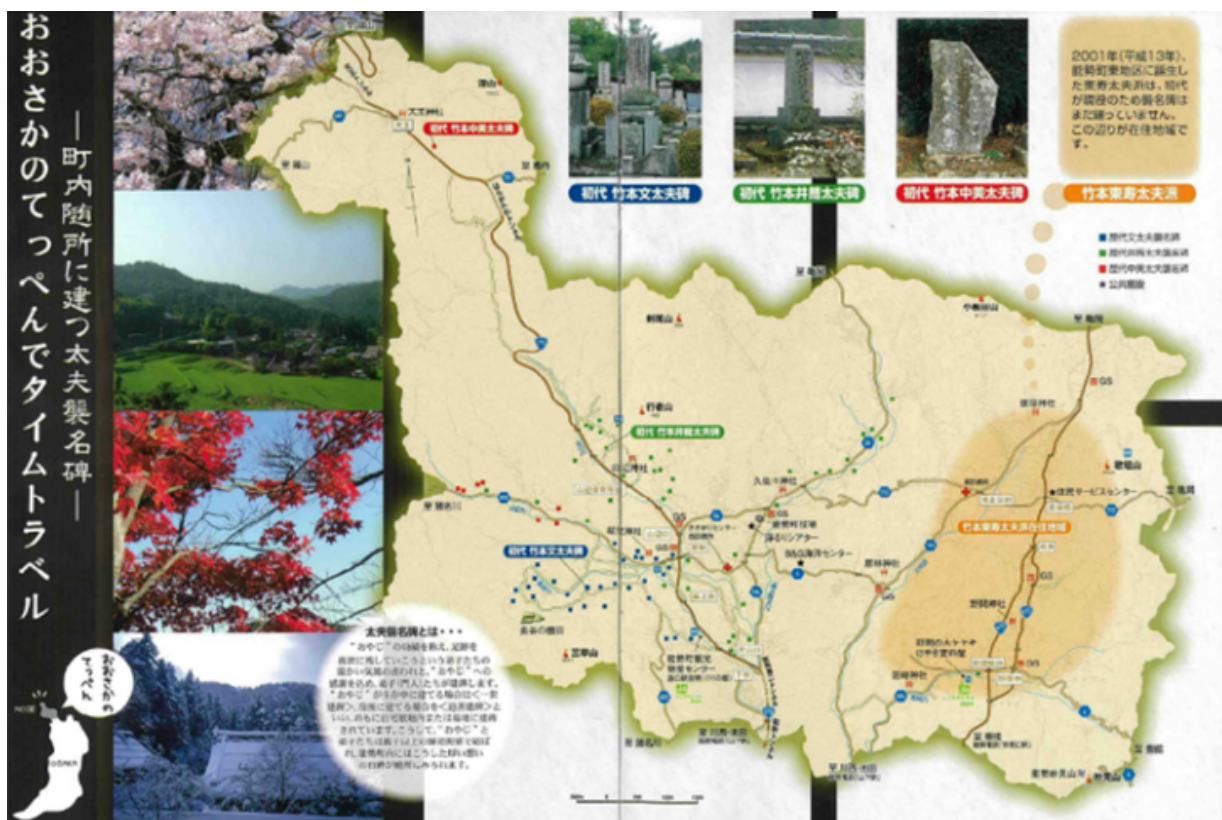
竹本 中美太夫派 (たけもと なかみだゆうは)

竹本 東寿太夫派 (たけもと とうじゅだゆうは)



#08 おおさかてっぺんでタイムトラベル 一町内随所に建つ太夫襲名碑—

ここに「能勢の浄瑠璃」というパンフレットがあります。そこには、おおさかのてっぺんでタイムトラベル一町内随所に建つ太夫襲名碑一の記載があり、太夫襲名碑の説明、四派の分布図、初代三派太夫碑写真など能勢町の地図にも落とし込んでいるのでとても分かりやすいです。



おやじが弟子に声をかけ、稽古をつけ、浄瑠璃が語れる太夫を増やしてきたので、居住地の地縁関係で〇〇派が決まることが多いようですが、例外もたくさんあるようです。現在でも、「親が文太夫派」で、「子どもが中美太夫派」という親子もいて「ここの地区だから〇〇派」という強い縛りはないようです。

ただ、#07で下線を引いた自治区を中心におやじが襲名されることが多く、浄瑠璃振興のために親交を深め、語りを積極的に育成していただく地区ということになります。いずれにせよ、能勢町は、全国どここの地区にもない、とても珍しい伝統芸能の継承方法によって、現在まで浄瑠璃を受け継いできています。今後も、この太夫が伝承されていけるように関係者の方々のご努力に深く敬意を表します。

#09 こども浄瑠璃 今年も舞台に立ちます 応援よろしく

大人の浄瑠璃だけではありません。こども浄瑠璃に興味を示し、浄瑠璃を習う小中学生がいます。2020年2月、2023年12月の2回、能勢人形浄瑠璃鹿角座ジュニア発表会が開催されました。子どもたちにも人形浄瑠璃の魅力を体験し、楽しんでもらうためにワークショップが開催されました。町内外から多くの小中学生が参加し、人形作り、稽古、発表会がおこなわれました。浄るリシアターに足を運び、舞台、楽屋、舞台裏などに触れるなどの体験をすることで、能勢の伝統芸能である浄瑠璃の魅力をより身近に感じ、知る機会となりました。その後、自分もやってみたいという子どもたちが鹿角座に入門し、大人と一緒に活動を続けています。

今年も、28日と29日の両日、太夫6人、三味線3人、人形10人の子どもたちが浄るリシアターの本番の舞台に立ちます。ほぼ町内からの参加者ですが、となり町からの参加者もあります。

このようにして、大人も子どもも一緒に浄瑠璃に親しむ能勢町の人形浄瑠璃。能勢オリジナルの能勢にしかない、能勢ならではの伝統芸能です。

みなさんの中から浄瑠璃を語ってみたい、人形を遣ってみたい、三味線を弾いてみたい、鼓お囃子もやってみたいという人は、是非、浄るリシアター（072-734-3241）まで、お問い合わせください。

#10 6月20日は学校公演 3年に1回 9年間で3回 観れる人形浄瑠璃

能勢ささゆり学園では、毎年、浄るリシアターで芸術鑑賞会を開催しています。人形浄瑠璃、演劇、音楽を3年に1度観劇します。このとりくみは、浄るリシアターが能勢町に創設され、ザ・能勢人形浄瑠璃が始まった1998（平成10）年に、元大内祥子館長と現松田正弘館長からの発案で、「地元で新しく建築されたシアターで、地元の子どもたちが、地元の大人たちが演じる、地元の伝統芸能を、一人一枚のチケットを持ち、座席番号を確認して、大人と同じ席で観劇する習慣を子どもの頃から身につけさせたい。」という熱い思いから始まりました。当時の大内館長がおっしゃった「小学1年生から中学3年生までの9年間で3回人形浄瑠璃を観れるようにしよう」という考えを現松田館長もその意志を受け継ぎ、今日まで実践してこられています。これほど、ありがたいことはありません。

能勢町がいかに浄瑠璃を大事にしているか、誇りにしているか、文化の価値を理解できる人を育てたいという思いのあらわれです。そして、将来、大人になって、日本中どこにいても、世界中のどの国にいても、能勢にはこんな素晴らしい「人形浄瑠璃」という伝統文化が存在していることに胸を張って語ってほしい、そんな熱い思いが込められた学校公演です。

6月18日の夜、岡田町長と一緒に学校公演のゲネプロにお招きいただき、一足先に観てきました。ご指導していただいている文楽座師匠の桐竹勘十郎さん、吉田義二郎さん、吉田義一郎さん、鹿角座の皆さんへのごあいさつをしてきました。

松田館長にお願いして、今回の教育長だよりに人間国宝の桐竹勘十郎さんのお写真を掲載したいとの依頼に快諾していただきました。ここに掲載させていただきます。



#11 めざすは、国の無形民俗文化財の指定を！

1993年（平成5年）に大阪府の無形民俗文化財に指定。また1999年（平成11年）には、“浄瑠璃という芸能が地域に伝播し伝承される過程で、全国的にも希少な伝承のあり方を生み出したものであり、芸能の過程を知る上で重要”とのことから国の無形民俗文化財の選択を受けています。めざすは、国の無形民俗文化財の指定です。地道なとりくみが必要ですが、町民の皆様にもこれからも浄瑠璃の魅力をもっともっと身近に感じていただき、身近な存在として浄瑠璃に親しんでいただきたいと思います。そして本家本元の「文楽」にも、ぜひ、お足を運んでいただきたいと思います。

→ 文楽の情報は [コチラ](#)

#12 6月28日（土）29日（日） きてな、鹿角。

今回の6月公演の演目は以下の通りです。チケットは随分売れていますが、まだ、若干ありますので、ご興味のある方は、ご購入ください。淨りシアター（072-734-3241）まで、お問い合わせください。



大阪・関西万博 EXPOメッセ「WASSE」ステージイベントに
能勢人形浄瑠璃“鹿角座”が出演します！

オリジナル演目を披露しますので是非ご来場下さい。

2025（令和7）年9月15日（月・祝）



©Expo 2025

大阪・関西万博公式キャラクター ミヤクミヤク

浄るリシアター

大阪府豊能郡能勢町宿野30
072-734-3241（火曜日 休館）

